

37 岡山大学

Okayama University

チーム発足10年目 節目の時期

岡山大学フォーミュラプロジェクト
Okayama University Formula Project
<http://fsaeokayama.wix.com/oufp>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: **OUPF-10**

OUPF-10の設計コンセプトは以下のとおりである。「高い運動性能、扱いやすさ、低い運用コスト」。これらのコンセプト実現のため各コンセプトに基づいてそれぞれ次のように設計を行った。

高い運動性能に関して、まず、加速性能について考える。吸排気システムにおいて適切な管長に設計することにより、大きなトルクを得ることを達成した。また、旋回性能に関して考える。目標とする最大横Gに充分対応できるようなサスペンションレイアウト・構造を設計することにより、高い旋回性能を実現した。

扱いやすさに関して、エンジン特性では低回転からの大きなトルクを出せるように設計した。コーナー立ち上がりの低速でのトルクがあれば走りやすいという、ドライバーコメントから、吸排気管長を最適化し、低速トルクを大きくした。また、ドライバーそれぞれに合わせて作る専用シートを採用することにより、高いホールド感を実現した。

最後はコストである。車両をコンパクトにすることにより、運搬や走行費用を抑え、運用コストを低くするようにした。

Participation report 参戦レポート

今年度は車検での大きな指摘もなく、大会3日目の朝にブレーキテストを終え、去年出走できなかったアクセラレーションとスキッドパッドを無事走り切ることができました。決して良いタイムではなかったものの、しっかりとタイムを残せたことに大きな意味があると考えています。また、その後行われたオートクロスも無事走り切り、去年よりも約5秒速いタイムを叩き出しました。

4日目に行われるエンデュランスを走りきれば、当初の目標であった全種目完走でした。しかし、豪雨による走行時間の短縮やオートクロスの全体順位があまり伸びなかったこともあり、エンデュランスを出走することができず、全種目完走とはなりませんでした。

悔しさが残る結果となりましたが、静的審査や設計面ではかなりプラス面の評価をいただき、貴重なアドバイスも得ることができました。

この悔しさや大会で得た課題、収穫としっかりと向き合い、今後の活動に生かしていき、次大会こそは全種目完走を果たしたいと思います。

今回の総合結果・部門賞

●総合 49位

Profile チーム紹介・今までの活動

岡山大学フォーミュラプロジェクトは2004年に発足し今年度で9年目を迎えます。今まで車両の改良を続けてきましたが、飛躍的な得点アップに繋がっていませんでした。今年はメンバー数が増えたこともあり、今までの車両の基礎から見直し、全審査完走をめざしました。

Team-member チームメンバー

楠見 隆行 (CP)

河原 伸幸 (FA)、木之下 博 (FA)、
田村 義彦 (FA)、山根 功 (FA)、田淵 晃嗣 (FA)、
河合 晃輝、荻野 雄太、北村 勇祐、谷 広貴、
出口 一輝、増田 大貴、溝口 真由、森 文太、
渡邊 匡惟、越智 正俊、小西 裕太、佐光 将里、
友松 泰岳、松村 隼斗、元島 淳、河合 俊樹、
吉谷 亮汰、若林 陵太

Sponsors スポンサーリスト

アントライオン、石原ラジエータ工業所、内山工業、
AVO/MoTeCJapan、NTN、F.C.C.、FCデザイン、
エーモン工業、オーエスジー、岡山科学技術専門学校、
岡山国際サーキット、奥平パイプ興業、川崎重工業、
協和工業、倉敷化工、ケイマックススピード、
山陽レジン工業、JX日鉱日石エネルギー、スズキ、
住友潤滑油、住友電装、ソリッドワークス・ジャパン、
ダイハツ工業、テイクオフ、テクノオイル・ジャパン、
デンソー、東日製作所、東洋コルク、戸田レーシング、
日進機械、日信工業、ニッポンレンタカー、福島化工、
プラズマ、プロト、三國工業、ミスミ、三菱自動車、
ライドオン岡山、ラストラーダ、RAYS、ワークスベル、
アルテアエンジニアリング、VI-grade Japan、
岡山大学工学部、岡山大学創造工作センター

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/37.html>